



愛隣幼稚園.....

園だより

.....14. 12月号

羊飼いの喜び

愛隣幼稚園の2学期は、あいりんまつりで始まりました。まだ暑い夏の終わりでした。さあ長い2学期が始まったぞ！そんな思いでした。台風と台風の合間の運動会。思いがけない収穫をいただいたミニ運動会。遠足もお天気に恵まれました。神様からいただく秋の豊かな実りを皆で分かち合うこともできました。2学期になって子どもたちは幼稚園中の誰もが仲間と感じ過ごす姿を多く見るようになっていきましたが、それはこのX1の期間を通して更に深まっていったように思います。子どもたちの笑顔に、あそびの中に溢れるエネルギーに大きな成長を実感します。さて、そんな2学期もアドベントの時を迎え、クリスマスへと歩みを進めていきます。駆け抜けてきた2学期ですが、子どももおとなもしばしば歩みを止め心を静めてこの時を過ごしたいと思えます。

今年も初めて本当のクリスマスに出会う子どもたちがいます。その子どもたちと一緒に同じように初めて本当のクリスマスに出会う大人がいます。こうしてまた、クリスマス嬉しいお知らせが愛隣につながる人々に届けられることは大きな喜びです。私もキリスト教に出会うまではイエス様の誕生をお祝いするクリスマスを知りませんでした。クリスマスツリーを飾ることが楽しく、クリスマスソングを歌ってその日を心待ちにしていました。イブの夜にはいつもと違う食事をいただき、サンタクロースからのプレゼントを楽しみに布団に入りました。願いどおりのプレゼントを手にした朝の驚きを覚えています。ワクワクして心が躍るクリスマスは、大好きな行事でした。しかしそのどこにも神様やイエス様の存在はありませんでした。中学生になって初めて本当のクリスマスを知った時にも、「クリスマス、おめでとう！」にピンときませんでした。「サンタさん、プレゼントありがとう！」ならしくりくるのですが、神様の御子、イエス様が生まれたことがどうして嬉しいのか、おめでとうなのか、何故そのことを祝うのかがわかりませんでした。あれから40年、毎年毎年、クリスマスの物語を聞いてこの時を過ごし、ようやくイエス様の誕生をお祝いするクリスマスの意味が分かるようになりました。

クリスマスに私たちに与えられる大きなプレゼントは“イエスさまがこの世に生まれた！”という出来事です。そのことは“神様が私たちと共にいてくださる”ということの意味しています。2014年前、「神様の子どもが生まれる」という知らせは、一番初めに羊飼いたちに届けられました。日々、過酷な労働に従事していた彼らは、神様から最も遠い存在の人々であると蔑まれ差別を受けてきました。そのことは彼らをして彼ら自身の尊厳をも低くするような扱いであったことが想像されます。自分たちなどは神様を拝むに値しない者、ましてやその恵みや救いに与るなどということは、願っていたかも知れませんが、起こりえないことと思ひこんでいたに違いありません。辛い生活や悲しい想いに寄り添い、その声に耳を傾けようとする者さえありませんでした。しかし神様はその羊飼いを選んで、このビッグニュースを誰よりも先にお届けになったのです。そのメッセージは『私はあなたがたと共にいる』というものでした。このニュースは羊飼いたちに希望をもたらしました。彼らは大きな喜びに満たされました。『今日、私たちのために神様の御子、イエス・キリストが生まれた！神様が私たちと共にいてくださる！』これに勝る喜びはありませんでした。

私たちは本当のクリスマスの出来事に会いました。私たちにもこの羊飼いたちに届けられたビッグニュースが届けています。幸せの中にある時、全てがうまくいっている時、私たちは神様が守ってくださっていると素直に感謝の言葉を口にします。しかし私たちの神様は、今日、私が悲しみの中にある時、ひとりぼっちだと孤独な思いに押しつぶされそうな時、必ずそばにいてくださるのです。『私はあなたと共にいる』。この出来事こそが、クリスマスです。